科目ナンバリング	U-LAS02 20007 SJ35						
授業科目名<英訳>	創造ルネッサンス論基礎ゼミナール Introductory Seminar on Art History			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　田口　かおり		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

美術作品をただ「目にする」体験からステップアップし、注意深く対象を観察/分析し、解釈し、自らの感覚や学びを言語化する「作品記述-ディスクリプション-」の方法論を学ぶ。毎回の授業の前半では複数の作品を取り上げ、重要な観点（作者、時代背景、構図、構成、色彩など）を整理する。この学びを踏まえた上で、授業の後半では、受講者全員が課題として示された作品の記述を実際に行い、提出する。提出された記述については翌週授業にて振り返りを行う。この課題を繰り返すことで、対象に向き合い思考を言語化する作業に慣れ親しむこと、そして、文章力の向上を目指す。受講者の人数によっては、授業内でジョイント・リサーチを行うことを予定している。複数人から構成されるグループ単位で一つの作品を取り上げ、多角的な視野から作品について調査し、問題点をすくいあげて議論分析を行った上で、調査と考察の成果を配布資料とスライドを用いながら発表する。授業を通じて養われた思考力や発想力が、あらゆる学びを深めていくために役立てられるよう道筋を作ることを本授業の目的とする。

[到達目標]

（1） 芸術学特有の基本的な用語や考え方を理解する
（2）作品に親しみ、名称、作者、時代、表現の特徴や影響関係について理解し、知識を深める
（3）１と２を踏まえて、それぞれの作品及び作者の個性や、時代、社会との関わりなどについて各自が考え、自らの言葉で説明することができる
（4）情報の収集の仕方、また、確実な情報に基づく調査研究の方法を学び、自らの考えを論理的に組み立てる方法を実践的に身につける
（5）わかりやすく正しい文章で発表用レジュメ等を作成する力を身につける
（6）レジュメを使って、自分の考察も含めながら、要領よくプレゼンテーションできる力を身につける

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、時事問題への言及などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。

【前半　講義】
第1回　はじめてのディスクリプション――肖像画
第2回　家の「なか」と「そと」――宗教画
第3回　「見えるもの」と「見えないもの」――シュルレアリスム絵画
第4回　「嗅覚」と「視覚」――オルファクトリー・アート
第5回　「聴覚」と「色彩」――音響彫刻
第6回　作品の状態観察と分析――コンディション・レポートの作成

【後半　学生発表】
＊自身が関心を持つ作品を選び、作品の多角的なディスクリプションを発表形式で行う。

第7回　学生による発表とディスカッション（1）

創造ルネッサンス論基礎ゼミナール(2)へ続く↓↓↓

創造ルネッサンス論基礎ゼミナール(2)

第8回　学生による発表とディスカッション（２）
第9回　学生による発表とディスカッション（３）
第10回　学生による発表とディスカッション（４）
第11回　学生による発表とディスカッション（５）
第12回　学生による発表とディスカッション（６）
第13回　学生による発表とディスカッション（７）
第14回　学生による発表とディスカッション（８）
第15回　フィードバック

[履修要件]

前期開講の「ILASセミナー ：西洋美術の歴史」の受講を推奨します

[成績評価の方法・観点]

授業後の毎回の提出物（作品記述）50%と個人の発表50%をあわせて評価します

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・ディスクリプション課題の提出
・口頭発表のための予習準備とレジュメの作成

[その他（オフィスアワー等）]

・質問などにかんしては、授業前後に時間が許す限り対応します
・個別の連絡手段（メールアドレスなど）は初回の授業の際に伝えますので、必ず出席をお願いします。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部